

## パッチテストによるマスク面体の皮膚への刺激について

### 1. 試験条件

試験対象物： マスク面体 接顔部材料 (熱可塑性エラストマー)  
(No.6100/No.6200/No.6300/No.3100/No.3200)  
被験者： 214名 (18歳以上男女)  
試験日時： 1994年3月7日~4月15日  
試験場所： Scottsdale, Arizona, USA  
試験実施者： Regina Wucimich (Hill Top Research, Inc.)

### 2. 試験方法

Draize Patch Test<sup>1)</sup>に従い試験を行った。

214名の被験者の上腕にパッチ (0.5平方インチ) をはり、24時間そのままにする。

24時間後、パッチをはずす。

さらに24(48)時間後、その部分を観察する。

、 の作業を9回行う。

(注意 ; この試験は3週間にわたり行われ、パッチは月、水、金曜日にはられた。

金曜日は月曜日に観察されるので、48時間後の観察となる。)

2週間、試験部分に何もはらない状態を保つ。

パッチを前回の試験部分と前回何もはらなかった部分に24時間をはる。

24時間後、パッチをはずし、2つの部位を観察する。

### 3. 結果及び考察

今回のパッチテストの結果、マスク面体の接顔部の材料で皮膚に炎症を示した人は、被験者214名のうちひとりもいなかった。したがって、今回の試験条件下では、皮膚に炎症を起こす材料ではないと言える。しかし、マスクの着用者の体質や体調、職場環境により皮膚の炎症を起こす可能性は否定することはできない。取扱説明書にもあるように、「人によっては防毒マスクの接触部分にアレルギー反応を起こすことがあります。」ので、アレルギー反応やかぶれが起きる場合は使用を中止して下さい。

(参考文献)

1) J. H. Draize "Dermal Toxicity" in Appraisal of Safety of Chemical in Foods, Drugs and Cosmetics, The staff of the Division of Pharmacology of the Federal Food and Drug Administration (Austin, Texas: The Editorial committee of the Association of Food and Drug Officials of The United States, 1959), pg.52

以上